

例年よりも日本からの参加者が少ない印象であったが、コロナ禍以降の出生力の低下をはじめヨーロッパにおける最先端の研究動向に触れる貴重な機会となった。

(福田節也 記)

日本人口学会第78回大会

日本人口学会第78回大会は、2026年6月6日(土)～6月7日(日)の2日間、立正大学(品川キャンパス(東京都))を開催校・共催として、対面形式で開催された。155名が参加し、活発な発表と討論が行われた。

第1日には学会賞授賞式およびシンポジウム「『出生抑制』(少子化)を考える——マルサス『人口論』第6版(1826年)刊行200周年にあたって」が行われ、2日目にははじめての試みである高校生によるポスターセッションが開催された。また大会前日には「地方行政のためのGISチュートリアルセミナー：交通インフラとGIS」が開催された。大会プログラムは以下の通りである。

大会前日 2026年6月5日(金)

第10回「地方行政のためのGISチュートリアルセミナー「交通インフラとGIS」

<組織者> 小池司朗(中央大学)・井上孝(青山学院大学)

<座長> 小西純(統計情報研究開発センター)

- 1) 川瀬正樹(広島修道大学)「無料で使えるGISを用いて地方公共交通のあり方を考える方法」
- 2) 小池司朗(中央大学)「路面電車沿線における人口変化の分析」
- 3) 丁兆文(青山学院大学)「ArcGISにおけるロケーションアロケーション分析の基礎—交通インフラを考慮した施設配置の検討—」
- 4) 長谷川普一(新潟市)「ネットワークアナリストを用いた公共交通利便度評価」

第1日 2026年6月6日(土)

Panel Session 1 Time Use as a Lens: Comparative Analysis of Life Course, Social Roles, and Well-being in China and Japan (オンライン開催)

Organizer & Chair: Yalei Zhai (Kyoto University)

Discussant: Reiko Hayashi (National Institute of Population and Social Security Research)

- 1) Yueping Song, Wang Zaiyue, Shi Zhixin, Zhang Guanlin (Renmin University of China), How Does Overtime Work Affect Fertility Intention: From the Perspective of Family Time Collaboration
- 2) Ting Li (Renmin University of China), A Comparative Study on the Burden of Family Care for the Older People in China and Japan: Key Findings Based on Time Use Survey Data
- 3) Yongai Jin (Renmin University of China), Wenbo Hu (The University of Hong Kong), Tao Liu (Peking University), Working Hours and Fertility Intention: A Comparative Study in China and Japan
- 4) Lidan Lyu (Renmin University of China), Comparative Study of School-Age Children's Time Use in China and Japan

自由論題 B-1 「出生」

座長：和田光平（中央大学）

- 1) 坂井博通（埼玉県立大学）「日本の出生における月日選好」
- 2) 南拓磨（国立社会保障・人口問題研究所）・岩澤美帆（同）・守泉理恵（同）「1970年代、80年代生まれ女性の出生力：卒業時の不況、婚前妊娠、両立支援策の拡充に着目して」
- 3) 岩澤美帆（国立社会保障・人口問題研究所）・曹成虎（韓国保健社会研究院）・余田翔平（東京大学）「日本と韓国の結婚力と出生力：両国の少子化過程は何か違うのか？」
- 4) 可部繁三郎（福井工業大学）「TFR1.0割れ続く台湾の政策対応」1) 1966年丙午による期間/コーホート出生力への人口学的影響 原 俊彦（日本医療大学）

自由論題 B-2 「性・セクシュアリティ」

座長：守泉理恵（国立社会保障・人口問題研究所）

- 1) 曹成虎（韓国保健社会研究院）・菅桂太（国立社会保障・人口問題研究所）「未婚人口の結婚・出生の価値意識と異性交際に関する日韓比較分析」
- 2) 謝餘慶（日本大学）「制度変化は社会的態度を変えうるか—台湾の同性婚合法化をめぐる—」
- 3) 小島宏（早稲田大学）「ポスト「性革命」期の大学生における自慰・キスの関連要因」

General Session A-1 Global Perspectives

Chair: Reiko HAYASHI (National Institute of Population and Social Security Research)

- 1) Hiroaki MATSUURA (Shoin University), Differences in the Timing of the Demographic Dividend and the Role of Interstate Migration in the United States: Evidence from Historical Census Data
- 2) Shiko MARUYAMA (The University of Osaka), I-Hua CHEN (National Yang Ming Chiao Tung University), Anqi LI (Jinan University), Jianhua LI (University of Technology Sydney), Shu-Ti CHIOU (National Yang Ming Chiao Tung University), Li-Lin LIANG (National Yang Ming Chiao Tung University), Taiwan's Prenatal Sex-Selection Ban and Sex Ratios at Birth: Evidence from a Population-Based Natural Experiment
- 3) Ji-Ping LIN (Academia Sinica), Uncovering and Revitalizing the Missing-link of Taiwan Population: A Two-decade Research on Taiwan Indigenous Peoples

シンポジウム 「『出生抑制』（少子化）を考える——マルサス『人口論』第6版（1826年）刊行200周年にあたって」

日本人口学会・マルサス学会・立正大学経済研究所・麗澤大学人口家族研究センター 合同企画

座長：小沢佳史（立正大学）

討論者：井上孝（青山学院大学）・山崎好裕（福岡大学）

- 1) 森本美恵（国際基督教大学）「なぜ日本で子どもが生まれにくくなっているのか—出生抑制をめぐる人口人類学的分析—」
- 2) 柳沢哲哉（埼玉大学）「マルサスの人口制限」
- 3) 鬼頭宏（上智大学）「歴史人口学の視点から少子化を考える—成熟社会の人口学—」
- 4) 吉川洋（東京大学）「人口について考えた経済学者たち」

趣旨説明：高橋美由紀（立正大学），

開会挨拶：宮川幸三（立正大学），閉会挨拶：黒須里美（麗澤大学）

第2日 2026年6月7日（日）

企画セッション2「人口移動分析の方法：新たな展開と課題」

組織者／座長：中川雅貴（国立社会保障・人口問題研究所）

討論者：小池司朗（中央大学）

- 1) 小坪将輝（富山大学）「構成効果と行動効果からみた地域間人口移動の変化—重力モデルを用いた分解分析—」
- 2) 栗林梓（大分大学）「大学教育機会の質的側面を考慮した進学移動分析の提案」
- 3) 熊野貴文（京都産業大学）「核家族世帯の持家への転居の規定要因とその地域差」
- 4) 久井情在（国立社会保障・人口問題研究所）「日本の随伴移動の現状—世帯単位で捉える人口移動—」
- 5) 北村友宏（労働政策研究・研修機構）「子育て環境上の移動に関する分析：階層と移動先に着目して」

自由論題 C-1 「モデル・応用」

座長：中澤港（神戸大学）

- 1) 池周一郎（帝京大学）「地球重力と出生性比」
- 2) 原俊彦（札幌市立大学・名誉教授）「持続可能な社会へ：コロナ危機後の展望」
- 3) 八木琉成（慶應義塾大学・院）・石井太（慶應義塾大学）「間接推定に利用可能な死亡モデルの先進諸国への適用に関する研究—(Extended) Log Quad モデルの有効性評価—」
- 4) 大泉嶺（国立社会保障・人口問題研究所）・金城謙作（工学院大学）・千野由喜（国立陽明交通大学）「多地域レスリー行列における系譜解析と国内移動」
- 5) 佐野太一（東京大学）・瀬谷創（神戸大学）・沖大幹（東京大学）「気候変動影響を考慮した将来人口分布推計」

自由論題 D-1 「意識・規範」

座長：齊藤知洋（国立社会保障・人口問題研究所）

- 1) 江天瑶（お茶の水女子大学）「夫婦の幸福感に関する日中比較：妻の相対収入とジェンダー規範の影響」
- 2) 鈴木俊光（下関市立大学）「男性の育児休暇取得は「所得効果」によるものか、「社会規範」によるものか：日・瑞・独・仏の国際比較」
- 3) 佐藤一磨（拓殖大学）「中国における肥満と幸福度の関係は変化したのか」

自由論題 D-2 「死亡(1)」

座長：別府志海（国立社会保障・人口問題研究所）

- 1) 衣笠智子（神戸大学）・増本康平（同）・勇上和史（同）・羽森茂之（大和大学）・安田公治（青森公立大学）「新型コロナウイルスとワクチンによる主観的死亡率の変化—日本における貯蓄行動への影響—」
- 2) 林玲子（国立社会保障・人口問題研究所）「百寿者数の長期変動からみる江戸末期の死亡水準の悪化」
- 3) 逢見憲一（国立保健医療科学院）「2009～25年の月別死亡からみたインフルエンザ・COVID-19超過死亡」

高校生ポスターセッション・表彰式

企画セッション3 「性と生殖の生態学」

組織者：小西祥子（東京大学）

座長：森木美恵（国際基督教大学）

討論者：James Raymo（プリンストン大学）

- 1) 前田恵理（北海道大学）「日本の不妊症有病率について」
- 2) 小西祥子（東京大学）・森木美恵（国際基督教大学）「超低出生力社会における『不妊』：患者と医師へのインタビューから」
- 3) 赤川学（東京大学）「不妊治療における男性の役割と意味：インタビューデータの質的統合法による分析」
- 4) 杉田菜穂（大阪公立大学）「岡山県におけるリプロダクティブ・ヘルス関連施策の形成と展開：選択できることをめぐって」

自由論題 E-1 「人口経済」

座長：丸山士行（大阪大学）

- 1) 堀口侑（慶應義塾大学）・佐藤格（国立社会保障・人口問題研究所）・増田幹人（駒澤大学）・石井太（慶應義塾大学）「公的年金財政のマクロ計量モデルによる分析—高齢就業率の変化がマクロ経済に与える影響—」
- 2) 松下勝義（広島大学）・柳田達雄（大阪電気通信大学）・小野崎保（立正大学）「経済と人口が結合したモデルに基づく先進国共通の少子化の説明」
- 3) 大塚友美（日本大学）「簡易人口経済計量モデルの構築に関する一考察—カンボジア王国のデータを用いて—」
- 4) 安田公治（青森公立大学）・衣笠智子（神戸大学）・衛藤彬史（兵庫県立人と自然の博物館）「中山間地域における農家世帯員の農業従事に関する計量的研究—兵庫県養父市の事例—」

自由論題 F-1 「死亡(2)」

座長：逢見憲一（国立保健医療科学院）

- 1) 別府志海（国立社会保障・人口問題研究所）「新型コロナウイルス感染症の複合死因分析：2020～24年」
- 2) 石井太（慶應義塾大学）・別府志海（国立社会保障・人口問題研究所）・菅桂太（同）・岩澤美帆（同）「期待死亡率と実績死亡率の乖離に関する分析—新型コロナウイルス感染症拡大以降2024年までの動向—」
- 3) 井川孝之（明治大学）「2020年以降の死亡の変化と将来推計への反映」

自由論題 F-2 「世帯・家族」

座長：小谷真吾（千葉大学）

- 1) 松倉力也（日本大学）・小川直宏（アジア開発銀行研究所）・澤田康幸（東京大学）・田口響（同）・トラン・T・ヴー（同）「超高齢化社会日本における家族価値観の変化—1963～2010年の長期マイクロデータによる実証分析—」
- 2) 菅桂太（国立社会保障・人口問題研究所）「変わる世帯の構造—世帯動態調査より」

- 3) 小山泰代（国立社会保障・人口問題研究所）「世帯構造の地域差：都道府県レベルと市区町村レベル」
- 4) 高橋和宏（埼玉大学・院）「テレワークは家族形成を促進するか？ ―通勤時間との相互作用に着目したパネルデータ分析―」

自由論題 E-2 「移動」

座長：久井情在（国立社会保障・人口問題研究所）

- 1) 貴志匡博（国立社会保障・人口問題研究所）「住宅の種類別移動率からみた人口移動の特徴―第9回人口移動調査個票を用いた分析―」
- 2) 藤井多希子（国立社会保障・人口問題研究所）「若年女性の都道府県間移動のコーホート分析（2010～2020年）」
- 3) 奥田純子（長野大学）「秩父市への U ターン意向と関連する要因について」
- 4) 丸山洋平（国立社会保障・人口問題研究所）「「人口ダム機能」評価方法の地域人口学的検討」

自由論題 G-1 「統計・方法」

座長：余田翔平（東京大学）

- 1) 北原昌嗣（総務省統計局）「国勢調査における不詳補完に関する研究―CANCEIS による不詳補完を中心に―」
- 2) 廣嶋清志（島根大学）「前近代出生率の要因分解の可能性」
- 3) 和田光平（中央大学）「公的統計におけるコーホート合計特殊出生率の再検討」

自由論題 F-3 「結婚」

座長：吉田航（国立社会保障・人口問題研究所）

- 1) 松田茂樹（中京大学）「未来の物語が未婚者の結婚・出生意欲に与える効果の要因配置実験」
- 2) 前田正子（甲南大学）・長町理恵子（追手門学院大学）「3大都市圏別女性の就業状況の推移―学歴・未既婚別に着目して―」
- 3) 夏天（国立社会保障・人口問題研究所）・斉藤知洋（同）「中年未婚者の結婚意欲の動向（1992～2021）―出生動向基本調査を用いた分析―」

（岩澤美帆 記）

国連 ESCAP 民事登録及び人口動態統計(CRVS)地域運営グループ会合

昨年2025年6月、タイ・バンコクにある国連アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）において第3回アジア・太平洋地域民事登録及び人口動態統計（CRSV）閣僚級会合が開催され、CRVSの適切な実施を目指す2015～2024年の10年間計画が2030年まで延長されることが決定された。計画終了後の2025年の段階では目標は達成されておらず、2030年までの間に、アジア太平洋地域における、すべての出生、死亡、結婚登録が実施される体制整備が求められている。筆者は昨年の会議に参加すると共に、CRVS地域運営グループのメンバーとなったため、その2026年会合に参加することとなった。会合は2026年6月16日～18日に、バンコク市内ホテルで開催された。

会合には国メンバーとして、アルメニア、バングラデシュ、クック諸島、フィジー、ジョージア、